

41

Watch Repairing 時計修理



腕時計の修理を通して持ち主の思いを大切にする

どのような環境においても腕時計が正確に時を刻むためにメンテナンスを行うのが時計修理の仕事です。競技では、その修理に必要な技術や技能、センスが問われます。腕時計は正しい時刻を知ったり、時間を計ったりする役割に加えて、持つ人の個性を表現するアクセサリーのような役割も持っています。そのため、単純に壊れた機能を元どおりに修復するだけではなく、持ち主の愛着や思い入れに応えるような、高い技術とセンスが必要とされています。

競技について 競技時間:2日／7時間30分

課題は2日間かけて行われます。1日目の課題は、クオーツ腕時計と機械式ムーブメントの不具合箇所を見つけ出し、課題に定められた正しい状態になるよう修理すること。修理と同時に、腕時計の分解・洗浄・注油・組立も行い、きれいに仕上げて提出します。2日目は、支給された材料を用いて、時計に使われている「巻真形状部品」を手作業で製作します。

競技職種と生活との関わり

時計は正確に時を刻まなければならぬと同時に、腕時計は手につける装飾品として美しくなければなりません。時計には様々な種類がありますが、ゼンマイの動力で歯車を回転させて動かす機械式時計と、電波時計を含む電池式やソーラー式のクオーツ時計と、大きく二つに分かれます。時計それぞれのメカニズムを理解し、不具合のある状態の時計を元どおりに復元することができる時計修理職人。その手によって、愛着がある時計を長年にわたり、使い続けることができるのです。

前回大会金メダリストからメッセージ！

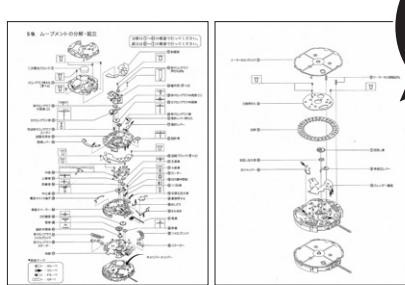
技能五輪に挑戦できることは、技術的にも精神的にも成長することのできるいい機会だと思います。最大の敵は自分自身だと思うので、負けずに頑張ってください！



高橋 未来さん
秋田エプソン(株)



機械式ムーブメント



2022年大会
競技課題



使い続けるために求められるのは 正確性と美しさ

1日目、2種類の腕時計を修理する課題では、不具合のあった箇所の修理状況や、時計としての完成度が求められます。2日目の部品製作課題では、工具を使った加工精度の正確性が評価のポイント。時計修理では既製の部品がない場合、時計技能士自身で部品を作ることもあります。エコロジーの観点から見ても、ものを修理して使うことはとても大切。これを支える時計技能士は、今後の循環型社会に不可欠な存在でもあります。

岸 良一主査
一般社団法人日本時計協会

